

はにい 「顕微鏡の中で見えた」 平成27年11月24日

理科の血液の循環の授業。「金魚の尾ひれで血液の流れを見てみよう」というテーマ。すでに5、6人の班に分かれて顕微鏡を順番にのぞいている。

実はこの前に一騒ぎ。金魚の血液を見るということで生徒の間で、

「エッ、金魚殺しちゃうの！ かわいそ！」「だって、血を見るんでしょ！ そんなのヤダ！」



「だから、尾ひれで見るんだって、先生言ってたよ。」

「外から見えるの？ 見えてないじゃない。」

「だから、顕微鏡で拡大して見るんじゃない。そうすると血液の流れが見えるんだって。」

「なんだ、生きたままみるのか～。良かった。」

穏やかな表情になった生徒達は、顕微鏡をかわるがわるのぞいた。

「血液の流れが速くなったり、遅くなったりして見えた。」

「どうしてだと思う？」

「心臓がドクドク動くから。」

「そうだね。他には？」

「体の方に流れていくのと、尻尾の方に流れていくのが見えた。」

「尻尾の方に流れていくのが動脈じゃない！」

「赤い粒が見えた。」

「赤血球じゃない！ ねえ、先生？」

「そうだよ。よく見えたね。」

「じゃあ、この白っぽいのは白血球ってこと？」

「川の流れのようだった。」

「金魚ってすごいな。」

「じゃ、人間ってもっとすごいんじゃない。命のつながりを、顕微鏡の中で発見した。」



『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。
ご意見・ご感想は inochi4027@pref.kanagawa.jp